

第3期 岡山市教育大綱

Phase 3 : Okayama City Education Policy

令和8年度～令和12年度

令和8年3月

岡山市では、「『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる」を目指すべき教育の姿として定め、その実現に向けて、こどもたちの教育に取り組んでまいりました。

第1期教育大綱（平成29年度～令和2年度）では、学力の向上や問題行動等の改善という喫緊の課題をなんとか解決しなければならないという強い危機感のもと、教育委員会が主導して授業改善を進めました。校長先生をはじめとした経験豊富な先生が各教室を回って指導助言をするなどの取組により、先生同士の対話、連携が生まれ、授業内容が改善されるとともに、こどもたちの安心感にもつながりました。

さらに、第2期教育大綱（令和3年度～令和7年度）では、引き続き学力の向上、不登校のこどもに対する早期の支援に取り組むとともに、「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができるこども」を目指すこどもの姿として掲げ、人づくりにも取り組んできました。

これまでの教育大綱を通じて、全国平均レベル以上の学力を達成し、不登校のこどもの出現率の増加を全国平均より抑えるなど一定の成果は見られ、岡山市の教育の土台は出来上がったのではないかと考えています。その一方で、人づくりの面では、表現力の向上などの成果はあるものの、選択と挑戦を繰り返す力が身につけているとまでは言えず、道半ばの状況となっています。

加速する人口減少・少子高齢化、価値観の多様化、情報技術の急速な発展、国際情勢の不安定化など、先行きが不透明な社会情勢が依然として続いており、将来の予測がより困難な時代となっています。こうした中で、社会の変化に対応し、失敗を恐れず、選択と挑戦を繰り返す力の育成はますます重要なものとなっており、これまでの人づくりの取組をさらに力強く進めていく必要があります。それとともに、不登校が社会全体の問題となる中、誰一人取り残さず、こどもたちが自ら考え、地域や社会とつながり、社会的に自立していくためには、どういった教育が求められるのか、我々がやるべきことは何なのか、総合教育会議の場で活発な議論を重ね、このたび、これまでの取組の成果を土台とした未来志向型の第3期教育大綱を策定いたしました。

本大綱に基づき、次世代を担うこどもたちが未来の世界へ大きく飛躍できるよう、教育の推進に全力で取り組んでまいります。

第3期教育大綱の柱

郷土の先人・犬養木堂は、「教育は国家百年の大計」という表現のもととなった、中国春秋時代の管子の言葉「終身の計は人を樹うるに如くは莫し」を引いて、『樹人』という書を遺されました。

まちづくりは人づくり、人づくりはまちづくりです。百年先を見据え、教育を通じて、未来の郷土、ひいては世界の発展の基礎を築いていくことが岡山市の使命であり、先人の教えを胸に刻み、社会全体「オール岡山市」で人づくりに力を注ぎます。



岡山市がめざす教育

『樹人』 明日の世界に雄飛する人を樹うる

「『樹人』明日の世界に雄飛する人を樹うる」の実現に向けて、これまでの教育大綱では、主に当時の教育現場における喫緊の課題を解決するため、「学力の向上」、「問題行動等の防止及び解決」等の目標の達成に取り組みました。

第3期教育大綱ではこれらの総括に加えて、国の教育振興基本計画のコンセプトや社会背景も踏まえて、これからの岡山市のこどもに必要なものを次のとおりと考え、その実現のために、重点的に取り組むべき3本の柱を掲げます。そして、3本の柱の取組を通して「自立に向かって成長するこども」の育成を目指します。

これからの岡山市のこどもに必要なもの

- 考える力の基礎となる学力と発信力
- 誰一人取り残されない学びの場・居場所の充実
- 地域社会とつながり、何ができるか考え、行動する力



第3期教育大綱の3本柱



これまでの教育大綱の総括

第1期教育大綱

■ 背景と目標

策定当時（H28）のこどもの状況は、学力については偏差値48の教科が見られ、中学校における暴力行為の発生件数は全国平均の約2倍、小学校における不登校の出現率は全国平均を上回るなど、大きな課題がありました。これらの状況を打破し、学校教育の変革にチャレンジするため、喫緊の課題である「学力の向上」と「問題行動等の防止及び解決」を目標に掲げ、岡山市を挙げて取り組むこととしました。

■ 取組

学校	教育委員会
公開授業や研究協議等の実施	学校訪問による学校運営・授業改善への指導助言（学期1回以上）
校長による授業参観（週2回以上） 教員への指導助言	岡山市独自の学力調査（学力アセス）及び全国学力・学習状況調査の結果を活用した授業改善の推進
問題行動等に関する研修会または実際の事例について検討するケース会議を開催（年3回以上）	学校訪問による問題行動等の実態や対応状況の把握及び学校の対応力の向上に向けた指導助言（学期1回以上）
規範意識向上の取組（道徳の授業、非行防止教室等）を全校で実施	ケース会議での指導助言や研修会への講師の派遣を実施

■ 成果と課題

校長による授業参観や教員への指導助言等の実施により、学校全体でより良い授業づくりに取り組もうとする意識が高まりました。

また、問題行動等に関する研修会を年3回以上実施するなど、教職員が1人で抱えこむことのない指導・支援体制が整ってきました。

【学力の向上】

- 全国学力・学習状況調査において、小学校の国語・算数、中学校の国語・数学ともに偏差値50以上を実現し、こどもの考える力の基礎を築くことができました。
- ▲記述式問題の正答率の改善は不十分でした。根拠を明確にして説明する力を育成する必要があります。

【問題行動等の防止及び解決】

- ▲中学校における暴力行為の発生件数は、全国平均の約2倍で推移しています。
- ▲小学校・中学校合わせた新たな不登校の出現率は、全国平均に比べ緩やかな増加にとどめることができましたが、新たな不登校児童生徒の増加が続いていることが課題です。

第2期教育大綱

■ 背景と目標

第1期教育大綱で整ってきた組織体制や仕組みを土台に、第2期教育大綱では、社会がどのように変化するか分からない状況の中、こども一人一人がそれぞれの立場で社会に貢献し、自他の幸せを創造できるようになるために、目指すこどもの姿として「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができるこども」を掲げました。

その実現のために、「活用力」「表現力」「向上心」「社会性」「人権尊重の精神」の5つの力を育むこととし、5つの力の基礎として、「考える力の基礎となる学力の育成」「新たな不登校の抑制」を目標に掲げて取り組むこととしました。

■ 取組（第2期で新たに取組んだもの）

学校	教育委員会
学力調査等の結果を活用した授業改善	授業改善に向けた学校の「改善プラン」への取組に指導助言（年4回）
こどもが議論し合う活動や探究する活動を取り入れた授業づくり	若手教職員の研修等の実施
学級内の居心地のよさなどに関する調査結果を活用した共に支え合う学級集団づくり	調査結果の活用に関する研修の実施
年間10日以上欠席したこどもへの「個別の支援計画」に基づいた組織的な支援	校内支援教室へ新たに教員を配置し、校内での居場所を確保

■ 成果と課題

第2期教育大綱で目指した「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができるこども」の育成について、表現力の向上など成果が表れているところではありますが、選択と挑戦を繰り返す力が身につけているとは言い難く、「道半ば」の状況です。

【5つの力の育成】

- 課題であった記述式問題の正答率は全国平均レベルとなり、自分の考えを整理して伝えることができるこどもが増加しました。
- ▲ 情報を収集し、考えをまとめて発表している（探究的な学習をしている）こどもの割合は、目標とする全国平均レベル以上には到達していません。
- ▲ 協力しようとするこどもの割合や人を大切にできるこどもの割合は、基準値（R1）から5ポイント上昇させるという目標を達成できていません。

【考える力の基礎となる学力の育成】

- 全国学力・学習状況調査にて、偏差値50以上を継続できました。

【新たな不登校の抑制】

- ▲ 新たな不登校の出現率については全国的に増加する傾向にありました。岡山市においては全国平均に比べて緩やかではあるものの、増加しています。
- ▲ 今後、学校や教育委員会にとどまらず支援の輪を広げていく必要があります。

柱1 学び続ける力の育成

激しい変化が止まることのない時代に、自らの人生を切り拓いていくこどもにとって、変化を受け入れながら、生涯にわたって自ら学び続ける力を身につけることが必要です。

そのため、岡山市では、「考える力の基礎となる学力」を育成するとともに、こどもがこれからの時代に必要となる「学び方」を習得できるよう、課題に対して情報を収集し考えをまとめ、自らの考えを発信する探究的な学びを充実させていきます。

また、このようなプロセスで学ぶことは、課題の解決に向けて試行錯誤するというものであり、第2期教育大綱で課題があった選択と挑戦を繰り返す力の育成に寄与すると考えます。

現状

● 全国平均レベルの学力の定着

「考える力の基礎となる学力」は身につけていますが、これを維持することが必要であると考えます。

○全国学力・学習状況調査の偏差値

		R3	R4	R5	R6
小学校	国語	50	51	50	50
	算数	50	50	50	50
中学校	国語	50	50	50	50
	数学	50	50	51	50

R2年度は調査なし
※全国学力・学習状況調査より

▲ 探究的な学び方の習得

課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現の過程を含む学習活動の機会を充実させる必要があると考えます。

○探究的な学習をしていると感じるこどもの割合

(単位 %)

		R3	R4	R5	R6
小学校	岡山市	71.5	71.5	72.2	78.3
	全国	73.0	72.7	74.8	81.3
中学校	岡山市	73.0	71.9	71.6	80.0
	全国	70.2	72.1	72.6	82.2

R2年度は調査なし
※全国学力・学習状況調査より

考える力の基礎となる学力と発信力

目標

こどもが「考える力の基礎となる学力」に加え、「探究的な学び方」を身につけることができるよう、次の2点を目標とします。

全国平均レベルの学力を維持

探究的な学びの充実

目標値 (R12)

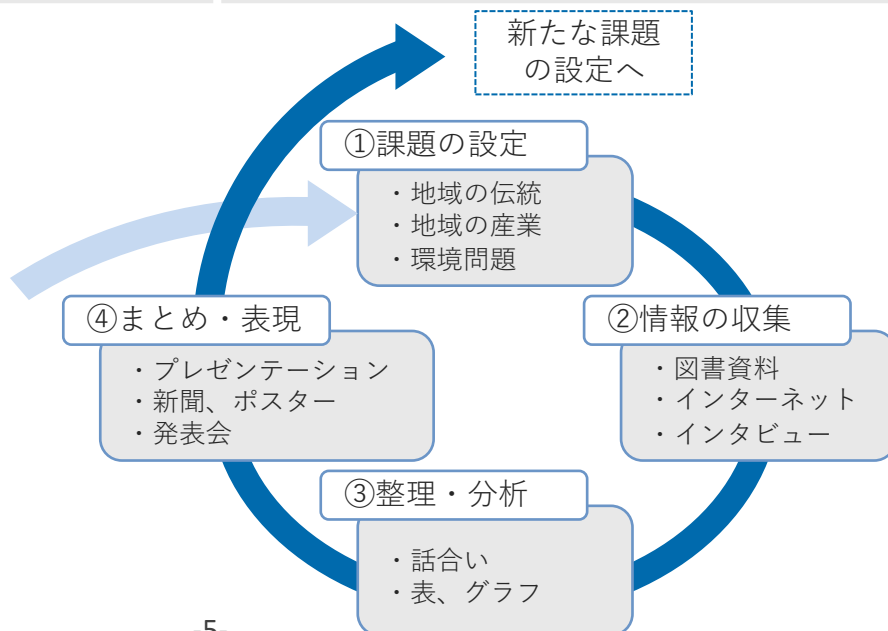
- 全国学力・学習状況調査での学力について全国平均レベル以上を維持する。
- 探究的な学び*をしていると感じるこどもの割合を
小学校で84.0%以上、中学校で85.0%以上にする。

取組

学校	教育委員会
新たに取り組むもの	
探究的な学びの視点を取り入れた授業づくり	総合的な学習の時間等の充実に向けた授業改善への指導助言 学習の成果をより多くの人へ伝える発表の場の設定
継続して取り組むもの	
校長を中心とした校内の授業参観・指導助言	学校訪問による学校運営・授業改善への指導助言
学力調査等の結果を活用した授業改善	授業改善に向けた学校の「改善プラン」の取組への指導助言

*「探究的な学び」とは

こども自らが課題を設定し、調べ、整理し、発信する学びの過程を「探究的な学び」といいます。



柱2 不登校の子どもなどの居場所づくりと社会的自立への支援

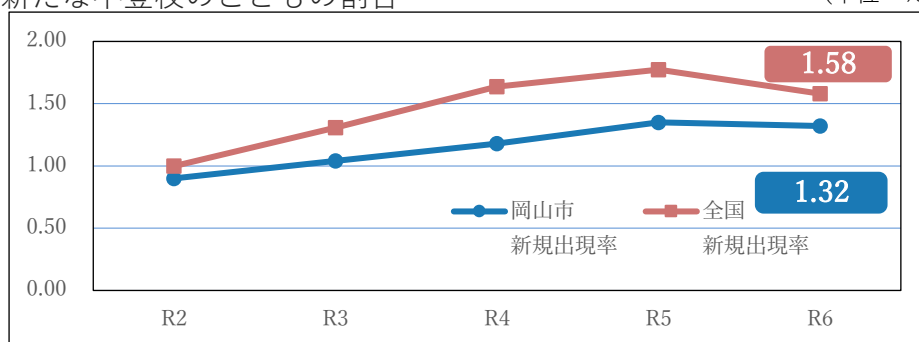
第2期教育大綱の取組を継続し、新たな不登校の抑制に努めます。また、こどもの社会的自立に向けて、一人一人の背景にある要因を把握し、個に応じた支援を行うとともに、多様な学びの場や居場所を提供するなど、関係部局間の連携を進め、学校だけでなく社会全体で子どもを受け入れる仕組みの構築を目指します。

現状

▲ 新たに不登校になったこどもの割合

新たに不登校になったこどもは増加傾向にあり、個別の支援計画に沿ったさらなる支援の充実が必要であると考えます。

○新たな不登校のこどもの割合 (単位 %)



▲ 不登校の子どもへの多様な支援

学校は、こどもや保護者に寄り添った相談支援等を行ってきましたが、学校内の取組にとどまる傾向が見られました。今後は、こどもにとって支援の選択肢が広がるよう、学校外も含め、広く専門家の知見を活かして、支援を充実させる必要があると考えます。

○教員以外からも専門的な支援等を受けている不登校のこどもの割合 (単位 %)

		R2	R3	R4	R5	R6
小学校	岡山市	72.7	74.3	62.7	60.1	56.1
	全国	69.4	67.0	65.1	63.7	63.6
中学校	岡山市	57.8	54.6	56.2	45.8	50.3
	全国	63.9	62.1	60.0	59.7	60.4

※各表は児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査より

目標

こどもの実態に合った適切な支援を切れ目なく保障するため、次の3点を実施します。

学びの場・居場所の提供

個別の支援計画のさらなる充実

関係部局間の連携

目標値 (R12)

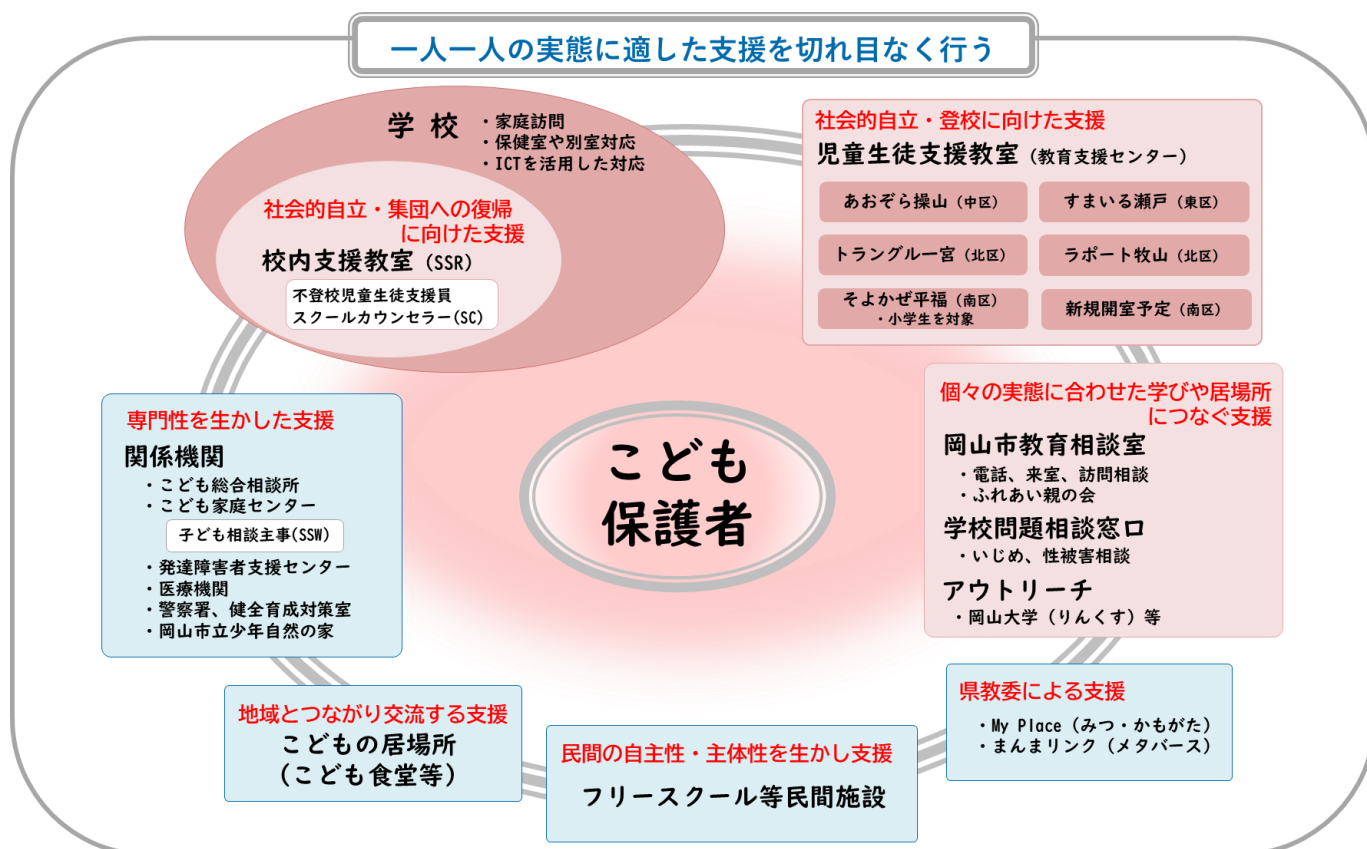
- 新たに不登校になるこどもの割合を増加させないように努め、全国値以下を維持する。
- 不登校のこどものうち、学校内外で社会的自立に向けた専門的な支援等を受けているこどもの割合を全国値以上にする。

誰一人取り残されない学びの場・居場所の充実

取組

学校	教育委員会
校内支援教室等で効果的な指導・支援	校内支援教室・児童生徒支援教室等を拡充 民間支援施設利用料補助
欠席10日以上で個別の支援計画の作成	個別の支援計画作成のための支援
専門家のアセスメントに基づく、個別の支援計画の見直し	医療や心理の専門家を派遣
岡山っ子育成局	
教育委員会と協働して、こどもと保護者、民間支援団体の実態把握に努め、サポート体制を充実	こどもの居場所づくり支援 (こども食堂等)

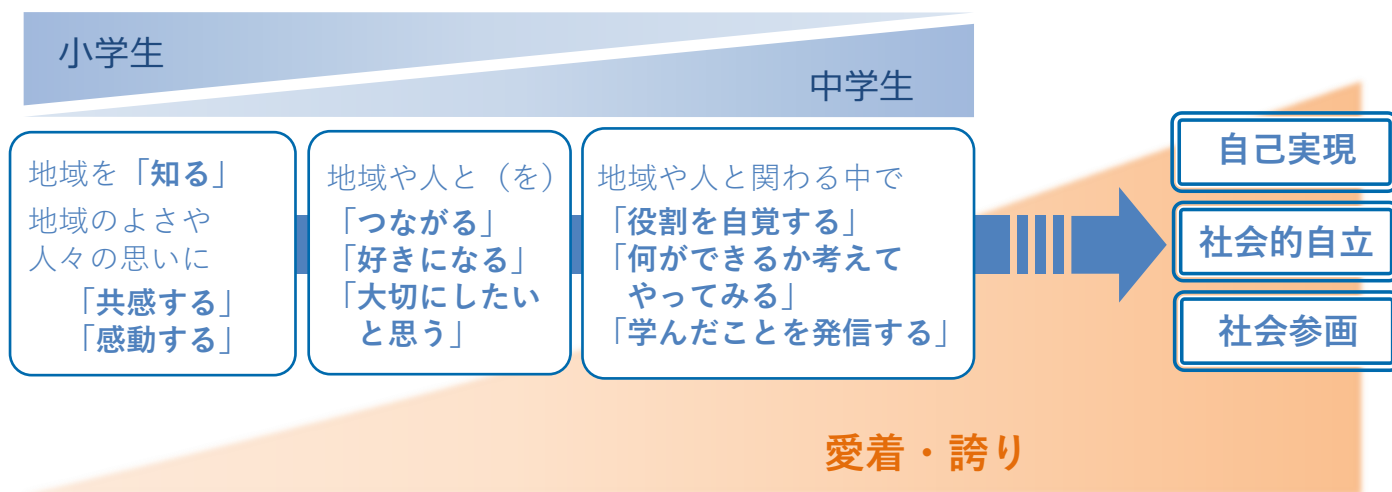
○不登校のこどもなどの居場所づくりと社会的自立を支える岡山市の取組図



柱3 地域社会とつながる力の育成

身近な地域社会は、こどもにとって生まれて初めて見守ってくれ、寄り添ってくれる存在であり、時には価値観や生き方に影響を与えてくれる存在でもあります。こどもが地域社会とつながることで得られる安心感や自信は、他者と信頼関係を築くことや、課題の解決に向けて粘り強く取り組むことを後押しするものとして重要な要素であり、これまでの教育大綱の取組で「道半ば」となっている選択と挑戦を繰り返すための原動力となり得ると考えました。

岡山市では、こどもの地域社会とつながる力を育成するために、地域のよさや人々の思いを知り、地域社会のために何ができるかを考え、表現する機会を設けます。こどもが学びを積み重ねることにより、愛着や誇りが醸成されていく中で、自己実現や社会的自立、社会参画につながると考えます。



現状

○地域や岡山市の歴史・自然に関心があるこどもの割合

(単位 %)

	R4	R5	R6
小学校	67.1	68.0	66.0
中学校	49.6	49.8	51.4

R3年度以前は調査なし

※岡山市教育に関する総合調査より

○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うこどもの割合

(単位 %)

		R5	R6
小学校	岡山市	77.6	84.3
	全国	76.8	83.5
中学校	岡山市	65.2	76.6
	全国	63.9	76.1

R4年度以前は調査なし

※全国学力・学習状況調査より

▲地域の歴史・伝統・文化に関心があるこどもの割合は高いとは言えませんでした。また、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うこどもの割合は、全国平均並みでした。地域や社会とのつながりを感じられるような機会を設けることが必要であると考えます。

地域社会とつながり、何ができるか考え、行動する力

目標

こどもが、地域のよさや、それに関わる人々の思いを知るとともに、地域とつながって、自分の考えを表現することなどを通じて、地域社会のために何ができるかを考える力や行動する力を育成していきます。また、これらの取組は、学校教育だけでなく、地域社会においても進めています。

目標値 (R12)

- 地域の歴史・伝統・文化や自然に関心があるこどもの割合を小学校で72.0%以上、中学校で60.0%以上にする。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うこどもの割合を小学校で86.0%以上、中学校で80.0%以上にする。

取組

学校での学び	
学校	教育委員会
市や地域の歴史資源等を活用した授業	市の歴史に関する資料の作成や教員への研修
	市や地域の歴史・文化などの講師派遣
学習したことや自らの考えを発表・発信・交流	学んだことを発表・発信する場づくり (魅力発信コンテスト、プレゼン交流会)
地域社会での学び	
文化財を知り、深く学ぶ機会の創出 (講座、発掘調査の説明会など)	
郷土資料等の展示・公開 (図書館のデジタルアーカイブなど)	
こどもの地域活動への参画を促進 (公民館活動など)	

おわりに

第3期教育大綱では、将来子どもたちが目標に向かって挑戦し、自らの人生を自ら舵取りできるよう、3本の柱の取組を通して「自立に向かって成長する子ども」の育成を目指します。そのために、教育委員会を中心に、岡山っ子育成局などの関係部局と協働し、本大綱に掲げる施策に取り組みます。

また、取組状況について毎年度の報告をもとに、総合教育会議において検証・協議します。そして、必要に応じて教育大綱の見直しを行っていきます。



第3期 岡山市教育大綱
Phase 3 : Okayama City Education Policy